



5月25日発売
定価: 本体360,000円 + 税
B2判 / 302ページ
ISBN978-4-09-682326-2

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09682326>

◆三好和義(みよし・かずよし)

1958年、徳島市生まれ。1986年、初めての写真集『RAKUEN』で木村伊兵衛写真賞受賞。南の島々をはじめ世界各地を巡り、『楽園』をテーマとした写真集を60冊以上刊行。近年は日本の文化や日本人の精神性に目を向け、日本の世界遺産、京都御所、桂離宮、仏像、陶磁器、富士山、伊勢神宮式年遷宮などを撮影する。

驚くのは大きさだけでなく、掲載された写真一枚ずつのクオリティ。劇的に進化した、デジタルカメラや印刷などの最新技術によって実現可能となった、贅沢で特別な写真集です。

アート本の世界で近年次々と発売されトレンドとなっている超特大本。掲載されている美術作品がまるで目の前にあるかのような体験ができ、読むというよりはその世界に入り込む感覚です。このたび新しくSUMO本シリーズというレーベルを立ち上げ、第一弾として写真家・三好和義氏が10年にわたって撮影した「東大寺」のあらゆる姿を掲載。最大限に大きくした写真で迫力ある世界をお届けします。

SUMO本
東大寺
三好和義・著

B2判超特大写真集 SUMO本第一弾



5月27日発売
定価: 本体1,700円 + 税
四六判 / 256ページ
ISBN978-4-09-388774-8

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09388774>

◆内田洋子(うちだ・ようこ)

作家。通信社ウーン・アソシエイツ代表。『ジノの家 イタリア10景』で『日本エッセイスト・クラブ賞』『講談社エッセイ賞』受賞。『ミラノの太陽、シチリアの月』などイタリアに関する著書多数。

イタリア在住40余年の著者が描く、あまりにドラマチックな15話。ルネサンス時代から続く港町で、ペストの時代の感染との戦いに思いを馳せる『リヴォルノの幻』。サルデーニャ島でローマ時代から続く養蜂家一族の知られざる生を描く『香草』。代々本を行商してきた村人と、素朴で味わい深い食生活を描く『旨味』、極東で宣教する老牧師との対話を描く『聖痕』ほか深い人間模様を味わえる15編。

イタリアの日常に潜む美しいものを描く
サルデーニャの蜜蜂
内田洋子・著

イタリアの日常に潜む美しいものを描く



6月10日発売
定価: 本体1,600円 + 税
四六判 / 370ページ
ISBN978-4-09-388767-0

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09388767>

◆笠井千晶(かさい・ちあき)

1974年生まれ。山梨県出身。ドキュメンタリー監督。静岡放送、中京テレビに勤務の後、2015年フリーに。テレビの報道現場で働く傍ら、東日本大震災後の福島へ一人で通い撮影した長編ドキュメンタリー映画『Life 生きてゆく』(2017年)で、第5回山本美香記念国際ジャーナリスト賞受賞。同作での取材をもとに執筆した本作で、第26回小学館ノンフィクション大賞受賞。

第26回小学館ノンフィクション大賞受賞作の単行本化。著者は元テレビディレクターで現在はドキュメンタリー監督として活躍中。

福島県南相馬市で生きる、上野敬幸さん一家を襲った東日本大震災。上野さんは、両親と幼い2人の子どもの家族4人が津波にのめられました。しかし、その後起きた原発事故により、自宅のあった地区は警戒区域に指定されます。そして、行方不明者がまだいるにも関わらず、警察も自衛隊も捜索に入らなくなりました。

本書は、そのような中で避難を拒み、仲間とともに行方不明の家族を自力で捜す上野さんの姿を、著者が7年にわたる丹念に取材した記録です。震災から年月が経つにつれ一般には報道されにくくなってしまった、被災地での現実が明らかにされる労作です。

「ずーっと置いてきぼりだ、ここは」
家族写真
3・11原発事故と忘れられた津波
笠井千晶・著

「ずーっと置いてきぼりだ、ここは」

茶と糧菓がおりなす新しい喫茶のかたち

茶と糧菓

喫茶の時間芸術

安藤雅信 / 溝口実穂・著



糧菓とは「和菓子とも洋菓子ともいえない、菓子とも料理ともつかない味や食感をたたえ、一定量の大きさの入れ物を糧とし、その範囲内で展開され続ける「菓子」という新しい菓子の概念」。予約がとれない人気茶寮「菓子屋このつ」主宰の溝口実穂が作るのは、四季折々の食材を組み合わせ、菓子と料理の境をゆく魅惑の菓子。茶道や中国茶文化に造詣の深い陶作家で「ギャルリ百草」を営む安藤雅信は、その菓子に魅了され「糧菓(りょうか)」と名付けました。ともに季節の茶会を開くなかで、大陸から伝来して以来、この国で独自に発展した茶の愉しみに新たな姿を見出します。

和、洋、アジアの垣根なく、茶、糧菓室礼が出逢い、芸術のごとき時間の流れを生み出すこれからの茶会の指南書。茶と糧菓が供される瞬間の息をのむような感動を写真に閉じ込め、安らぎと発見のある茶の楽しみ方を届けます。

6月11日発売

定価: 本体4,500円 + 税

四六判 / 160ページ

ISBN978-4-09-682322-4

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09682322>

◆安藤雅信(あんどう・まさのぶ)

陶作家、「ギャルリ百草」廊主。彫刻と焼物を生業とし、器から現代美術まで幅広い分野で活動をしている。茶道、中国茶など茶文化にも造詣が深い。

◆溝口実穂(みぞぐち・みほ)

「菓子屋このつ」主宰。23歳で、菓子と茶のコースを提供する茶寮「菓子屋このつ」をはじめ。菓子と体験型舞台を通して「時間芸術」を表現する。

刺客は、思わぬところからやって来た。

ボニン浄土

宇佐美まこと・著



1840年、気仙沼から出航した五百石船・観音丸は荒天の果てに、ある島に漂着する。そこには、青い目をした先住者たちがいた。彼らは、その地を「ボニン・アイランド」と告げた。時を隔てた現在。すべてを失った中年男は、幼少期、祖父が大切にしていた木製の置物をふとしたことで手に入れる。それを契機に記憶が蘇り、彼は、小笠原行のフェリーに足を向けた。物語は、ゆつくりと自転を始める。

6月16日発売

定価: 本体1,800円 + 税

四六判 / 354ページ

ISBN978-4-09-386577-7

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09386577>

◆宇佐美まこと(うさみ・まこと)

1957年、愛媛県生まれ。2006年に『るんびにの子供』でデビュー。2017年に『愚者の毒』で、日本推理作家協会賞長編及び連作短編集部門受賞。ほかに『骨を吊る』など。

ルポ 百田尚樹現象

愛国ポピュリズムの現在地

石戸諭・著



百田尚樹は、2010年代の日本を席捲する社会現象とも呼べる存在だ。彼の言葉には多くの批判が集まる一方、数々のベストセラーを生み出してきた。ファンからは国を愛する「ヒーロー」に見え、批判する側からは間違った歴史を語る「べてん師」に映る。百田が賛否両論を巻き起こし、日本の注目を集めるのはなぜか。現象を単に批判するだけでなく、「研究」が大切だ。筆者はその思いから、百田への独占インタビューを敢行。なぜ『永遠の0』を書いたのか、『日本国紀』『殉愛』への批判をどう受けとめているのか——ほか直球質問に対して、初めて本人が語り尽くした。

さらに、見城徹、花田紀凱、小林よしのり、西尾幹二、藤岡信勝ら、百田現象に影響を及ぼした関係者の実名証言も多数収録。これまで見えてこなかった「百田尚樹現象」の謎に迫る。

6月17日発売

定価: 本体1,700円 + 税

四六判 / 336ページ

ISBN978-4-09-388768-7

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09388768>

◆石戸諭(いしど・さとる)

1984年、東京都生まれ。記者、ノンフィクションライター。2006年に立命館大学卒業。毎日新聞社、BuzzFeed Japanを経て18年に独立。19年、ニュースウィーク日本版の特集「百田尚樹現象」にて第26回雑誌ジャーナリズム賞作品賞を受賞。本書は同特集に大幅加筆。著書に「リスクと生きる、死者と生きる」(亜紀書房)。

いっだって、僕らは本と生きてきた。
【P+D BOOKS】今月のラインナップ

北の河

高井有一・著

昭和20年、夫も家も失った母子は、どこに希望を見いだせばいいのか……。第54回芥川賞に輝いた表題作のほか、やはり身近な人の死をテーマにした「夏の日の影」「霧の湧く谷」など、計4篇を収録。

定価：本体500円＋税 B6判／224ページ

ISBN978-4-09-352392-9

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09352392>

子育てバジッパ

三好京三・著

学校に通ったことのない少女を預かることになった小学校教師夫妻の奮闘記。第76回直木賞受賞作で、映画化され大きな反響を呼んだ。より事実に近いといわれる姉妹作「親もどき（小説・きだみのる）」を同時収録。

定価：本体550円＋税 B6判／288ページ

ISBN978-4-09-352393-6

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09352393>

喪神・柳生連也齋

五味康祐・著

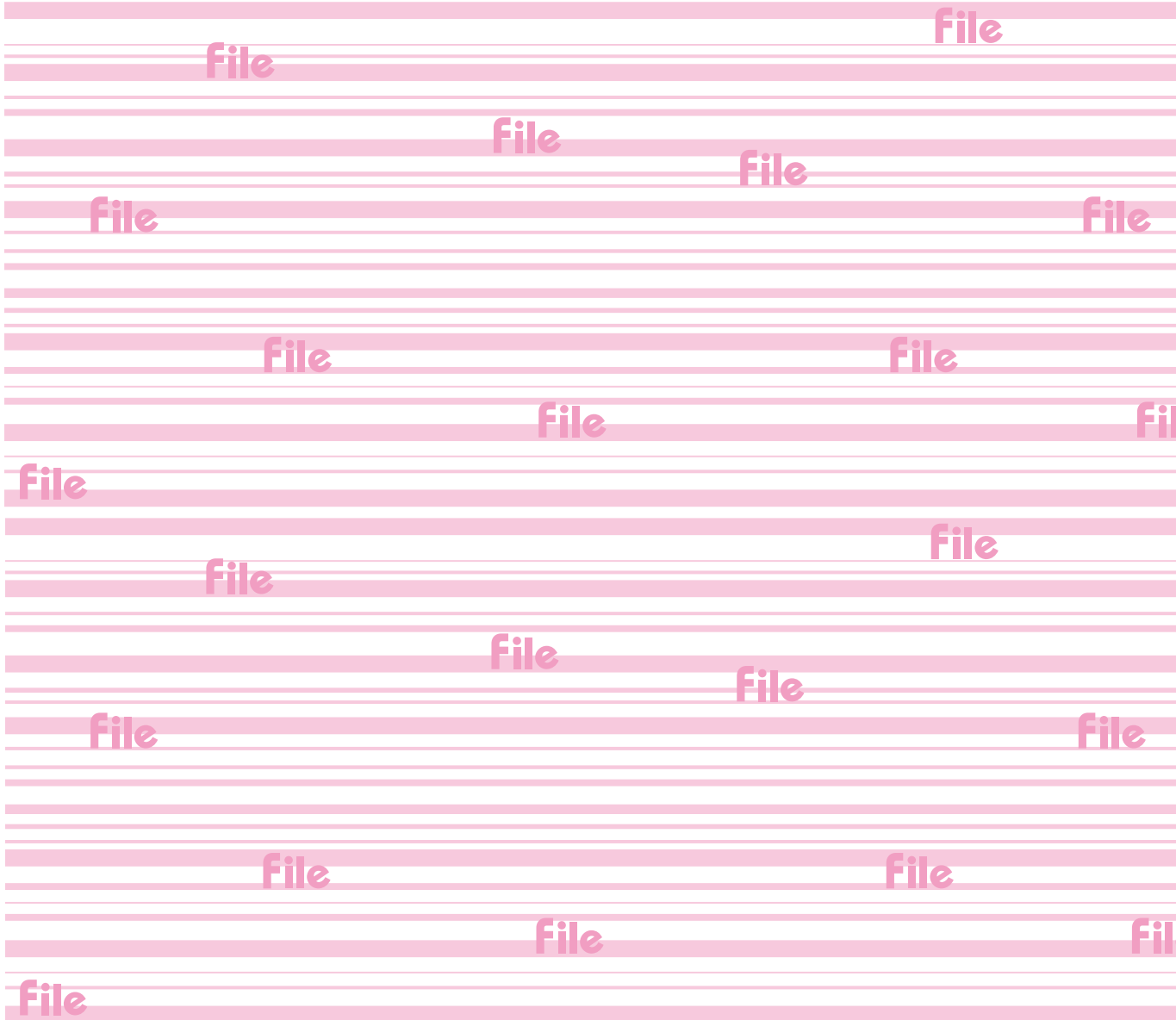
第28回芥川賞に輝いた「喪神」のほか、柳生流新陰流を継いだ連也齋とライバルとの決闘を描く「柳生連也齋」、剣豪が巨人軍の強打者として大活躍する異色作「刀齋は背番號6」など、剣を題材にした珠玉の11篇。

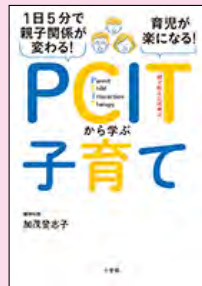
定価：本体650円＋税 B6判／416ページ

ISBN978-4-09-352394-3

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09352394>

6月11日発売・配信（ペーパーバックとデジタルで同時、同価格）
<https://pdbooks.jp>





5月28日発売
 定価: 本体1,400円 + 税
 四六判 / 194ページ
 ISBN978-4-09-311425-7

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09311425>

多くの科学論文でその効果が証明された子育てスキル「PCIT(親子相互治療法)」。「1日5分の特別な時間」で子どもとの問題行動が減り、子育てが本当に楽になります! NHKでも紹介された大注目のこのスキルを、イラストでわかりやすく解説。

精神科医の「1日5分で楽になる」子育て
1日5分で親子関係が変わる! 育児が楽になる! PCITから学ぶ子育て
 加茂登志子・著



5月25日発売
 定価: 本体1,250円 + 税
 A5判 / 112ページ
 ISBN978-4-09-310652-8

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09310652>

確実にやせるとTVでも話題のAtsushiスープ。今回はやせるだけではなく、美白、毛穴、むくみといった肌悩みなどに対応したレシピに。すべて10分以内で完成する、時短、楽チンなスープ本です。

美容液級のやせスープ本、できました!
野菜たんぱく質、食べる美容液レシピ やせる! キレイになる! ベジたんスープ50
 Atsushi・著



6月10日発売
 定価: 本体1,100円 + 税
 B6判 / 160ページ
 ISBN978-4-09-311424-0

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09311424>

東大卒ママたちが子供の頃の習慣を伝授。「語彙力UP」「車だね」ではなく「赤い車だね」と形容詞をつける「表現力強化」寝る前5分、今日の出来事を振り返る「記憶脳」五七五で暗記、など目からウロコの方法とは?

普通の子でも頭がよくなる! 即、実践法
東大卒ママたちに教わる、東大脳を育てる3歳までの習慣
 東大卒ママの会・著



6月8日発売
 定価: 本体1,200円 + 税
 A5判 / 112ページ
 ISBN978-4-09-310653-5

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09310653>

使い切れず余らせてしまう、食べられる部位を捨ててしまうなど、野菜は家庭での食品ロスNo.1。野菜などを長持ちさせる意外と知らなかった冷蔵&冷凍保存法と使い切るための92のレシピ。実践すれば節約も叶います!

役立つ保存法と、旬や栄養もわかるレシピ本
食品ロスをなくして節約! 野菜が長持ち&使い切るコツ、教えます!
 島本美由紀・著



5月25日発売
 定価: 本体1,200円 + 税
 四六判 / 168ページ
 ISBN978-4-7979-8843-7

『鬼平犯科帳』をこよなく愛する著者が、読み込むほどこに、ふと感じた疑問の数々……。『鬼平は棒高跳びの名手?』、『船宿鶴やは誰のもの?』など、独自の目線で読み解きます。『鬼平』の舞台をぶらり散歩。下町・深川と江戸城十九門をひと廻りする散策コースも掲載!

小学館スクウェアの本
『鬼平犯科帳』細見
 松本英亜・著



6月10日発売
 定価: 本体1,500円 + 税
 A5判 / 400ページ
 ISBN978-4-09-227221-7

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09227221>

コナンの推理クイズを解く感覚で算数問題に挑戦。来たるAI時代に対応する算数能力(論理力)読解力・図形力・算数的ひらめきを育成します。基礎問題から私立中学入試レベルまで愉快な問題を厳選掲載。親子で楽しめる157問!

AI時代に勝つ応用力までしっかり身につく
名探偵コナンの10才までに算数センスを育てる157問
 青山剛昌・原作 / 藤丸卓哉・監修・出題

小学館新書

働き方5.0
 これからの世界をつくる仲間たちへ
 落合陽一・著

ウィズコロナ、そしてポストコロナと呼ばれる時代の働き方は――。

ウィルスによって、社会の前提がすべて変わった。我々の「働き方」が大変革を迫られ、ますますコンピュータやAIが進化する中、私たちは「人間がやるべき仕事とは何か」という命題に直面している。機械では代替できない能力を持つ人材「クリエイティブ・クラス」として生きていくには、社会とどう向き合うべきなのか。メディアアーティスト・落合陽一のロングセラー『これからの世界をつくる仲間たちへ』を大幅アップデートして新書化。



6月3日発売
 定価：本体820円＋税
 新書判／208ページ
 ISBN978-4-09-825371-5

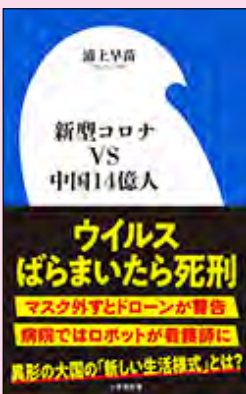
<https://www.shogakukan.co.jp/books/09825371>

小学館新書

新型コロナウイルスVS中国14億人
 浦上早苗・著

この本は、中国がらいたるにこそ読んでほしい。「コロナを世界にばらまいた元凶」として批判を浴びる中国だが、14億人もの中国人がどのようにこの未知なるウィルスと対峙したか、その実態は日本ではほとんど知られていない。中国が感染抑制のために講じた対策は、とんでもなくスケールの大きいものだった。「マスクを外すとドローンが警告」「GPSで感染リスクを追跡」「5Gで感染者を遠隔診療」「病院ではロボットが看護師に」そして「ウィルスを故意に拡散したら死刑……技術と強権と監視を駆使した、異形の大国の異形のコロナ対策ドキュメント」。

この本は、中国がらいたるにこそ読んでほしい。「コロナを世界にばらまいた元凶」として批判を浴びる中国だが、14億人もの中国人がどのようにこの未知なるウィルスと対峙したか、その実態は日本ではほとんど知られていない。中国が感染抑制のために講じた対策は、とんでもなくスケールの大きいものだった。「マスクを外すとドローンが警告」「GPSで感染リスクを追跡」「5Gで感染者を遠隔診療」「病院ではロボットが看護師に」そして「ウィルスを故意に拡散したら死刑……技術と強権と監視を駆使した、異形の大国の異形のコロナ対策ドキュメント」。



6月3日発売
 定価：本体820円＋税
 新書判／224ページ
 ISBN978-4-09-825372-2

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09825372>

小学館新書

金正恩の機密ファイル
 城内康伸・著

北朝鮮は独裁国家だ。情報統制も厳しい。内情を知るには公式発表の裏を読み取るか、脱北者の証言に頼るか。いや唯一、抜け道があった。それが今回、筆者が試みた内部資料である。

北朝鮮は独裁国家だ。情報統制も厳しい。内情を知るには公式発表の裏を読み取るか、脱北者の証言に頼るか。いや唯一、抜け道があった。それが今回、筆者が試みた内部資料である。朝鮮半島取材25年に及ぶ筆者は、独自のルートで約1400件超の機密文書や音声記録を入手した。金正恩の暗殺計画から朝鮮人民軍の内申書、はたまた深刻な麻薬汚染や巷に現れたモヒカン男子への戒めまで。北の監視網を潜り抜けた筆者の取材余録もコラムとして収録！



6月3日発売
 定価：本体860円＋税
 新書判／288ページ
 ISBN978-4-09-825373-9

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09825373>

◆落合陽一（おちあい・よういち）

メディアアーティスト。1987年生まれ。東京大学大学院情報学府博士課程修了。筑波大学准教授。デジタルネイチャー推進戦略研究基盤代表。ISTC REST x Diveristy プロジェクト研究代表。専門はHCIおよび知能化技術を用いた応用領域の探求。筑波大学学長補佐、内閣府知的財産戦略ビジョン専門調査会委員、内閣府ムーブメント型研究開発制度「ビジョナリー会議委員」などを歴任。近著「デジタルネイチャー」PLANETS（2020年）の世界各地図帳「SBクリエィティブ」など。オンラインサロン「落合陽一塾」主宰。

◆浦上早苗（うらがみ・さなえ）

1974年、福岡生まれ。経済ジャーナリスト。早稲田大学政治経済学部卒業後、1998年から西日本新聞社記者。2010年に中国大連の東北财经大学に7歳の息子を連れて国費博士留学。企業管理。少数民族向けの大連民族大学での講師を経て、米中ビジネスニュース翻訳、経済記事執筆編集など。専門はコミュニケーション・マネジメント、中国IT企業・ブロックチェーンなど。法政大学イノベーション・マネジメント研究科（MBA）兼任講師。本作が初の著書。

◆城内康伸（しろうち・やすのぶ）

1962年、京都生まれ。東京新聞（中日新聞）編集委員。ソウル支局長、北京特派員などを歴任し、海外勤務は計14年に及ぶ。著書に昭和二十五年最後の戦死者など。

小学館文庫

その手を離すのは、私
 クレア・マッキントッシュ・著
 高橋尚子・訳



◆クレア・マッキントッシュ
 英国プリストル出身。12年間の警察勤務を経て、2014年に本作で作家デビュー。16年のNYタイムズベストセラーのベストクライムノベル10に選ばれ、文学賞を多数受賞。

6月5日発売
 定価：本体1,100円＋税
 文庫／592ページ
 ISBN978-4-09-406704-0

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406704>

小学館文庫

民警
 猪瀬直樹・著



◆猪瀬直樹(いのせ・なおき)
 作家。1946年、長野県生まれ。「ミカドの肖像」で第18回大宅壮一ノンフィクション賞、「日本国の研究」で文藝春秋読者賞受賞。東京都副知事を経て2012年、東京都知事に就任。翌年辞任。主な著書に「天皇の影法師」昭和16年の敗戦「猪瀬直樹著作集」日本の近代(全12巻)ほか。

6月5日発売
 定価：本体620円＋税
 文庫／224ページ
 ISBN978-4-09-406779-8

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406779>

小学館文庫

勝ちたければ歴史に学べ
 野村克也、知の野球史
 野村克也・著



◆野村克也(のむら・かつや)
 1935年、京都府生まれ。南海にテスト生で入団。戦後初の三冠王。南海、ヤクルト、阪神、東北楽天で監督を務める。2020年2月逝去。「野村ノート」など著書多数。

6月5日発売
 定価：本体720円＋税
 文庫／320ページ
 ISBN978-4-09-406780-4

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406780>

小学館文庫

骨を吊る
 宇佐美まこと・著



◆宇佐美まこと(うさみまこと)
 1957年、愛媛県生まれ。2006年に「るんぴの子供」でデビュー。2017年に「悪者の毒」で、日本推理作家協会会長編及び連作短編集部門受賞。近著に「ポン・ジュン」。

6月5日発売
 定価：本体800円＋税
 文庫／400ページ
 ISBN978-4-09-406781-1

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406781>

雨の夕刻、母親の目の前で幼い少年の命を奪ったひき逃げ事故。プリストル署の警部補レイは部下のケイトらと共に捜査を進めるが、犯人の手がかりすら掴めないまま時間は刻々と過ぎていた。一方、人里離れた海辺の街に逃げてきたジェナは、地域に馴染みアーツィストとして生計を立て、獣医師パトリックと惹かれ合う。執念の捜査でレイたちは犯人に辿り着くが、そこには予想も出来なかった衝撃の真実が隠されていた――。英米各紙のベストセラーリスト入りを果たした超話題作が満を持して登場。元警察官の女性作家が贈るサイコロジカル・スリラー！

1962年、日本初の民間警備会社・日本警備保障(現セコム)を企業した二人の若者は、1964年の東京五輪で選手村の警備を受注した。彼らに警備を発注した警察官僚が、のちに総合警備保障(ALSOK)を設立する。出自を異にする二つの警備保障会社はテロ、外国人流入、コンビニATMの爆発的增加などを背景に巨大化する。しかし、ますます複雑化する国際関係やテロの脅威、加えて新型コロナウイルスの猖獗の渦中であって、2021年東京五輪を守るのか。他の誰によっても成しえなかった、昭和、平成、令和を貫通する「鮮烈な視点」を提示してみせた画期的作品。

1935年、日本初の職業野球チーム『大日本東京野球倶楽部』が発足した年に野村克也氏はこの世に生を受けた。つまり野村氏の人生は日本プロ野球の歴史にほぼ重なる。これからのプロ野球発展のために、その記憶と記録を残しておくことは責務だと野村氏は言う。「精神野球」を「近代野球」に変えた「ドジャースの戦法」とは？「オールスターで村山実」に聞いた長嶋攻略法とは？「団野村は私をメジャーの監督にする夢を持っていた」「野村スコープ」誕生秘話」など、自身の人生秘話と、日本プロ野球の知られざるエピソード満載の、まさに「学べるプロ野球史」。

謎の骨格標本の発掘記事を見つけた家具職人・豊は、数十年前の小学生時代、仲間数人で山中に骨格標本を埋めたことを思い出す。しかし、それは記事の発掘場所とは明らかに異なっていた。同時に、ある確かな手触りから「あれは本当に標本だったのか」との思いを抱いた豊は、今は都内で広告代理店に勤務する哲平に会いに行く。最初は訝しがっていた哲平も、次第に彼の話に首肯し、記憶の底に淀んでいたあることを口にする。リーダー的存在だった骨格標本埋葬の発案者・真実子の消息がわからないなか、事態は思いも寄らぬ方向に傾斜していく。

小学館文庫

遊戯神通 伊藤若冲
 河治和香・著

明治三十七年、セントルイス万博に〈若冲の間〉が出現し、〈Jakuchū〉の名は世界に広まった。誰がこの明治の〈若冲ブーム〉を巻き起こしたのか。若冲の末裔という芸者に誘われるように、その迷宮に分け入ってゆくのは琳派を明治に継承した図案家、神坂雪佳。心の中の〈奇〉を描かずにはいられなかった若冲。男の孤独を認めながらも、そっと寄り添わずにはいられなかった女……。時空を超えて我々を魅了し続ける作品の数々を描き残した伊藤若冲という絵師に、江戸と明治、二つの時代から迫った長編小説。



◆河治和香(かわじわか)
 東京都葛飾区柴又生まれ。日本大学芸術学部卒業。CBSレシーブを経て、日本映画監督協会に勤務。2003年、小学館文庫小説賞を受賞しデビュー。「がいなもん 松浦武四郎一代」で中山義秀文学賞と舟橋聖一文学賞を受賞。

6月5日発売
 定価：本体700円＋税
 文庫／320ページ
 ISBN978-4-09-406782-8

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406782>

小学館文庫

竜宮城と七夕さま
 浅田次郎・著

100万ドルに値する体験をした！ 浦島太郎が食べたご馳走と、滅多に会えない織姫と彦星の恋の行方に想いを馳せる。表題作ほか、爆笑と感動と法悦の極上エッセイ集。JAL機内誌『SKYWARD』人気連載エッセイ「つばさよつばさ」文庫化。



◆浅田次郎(あさだじろう)
 1951年、東京都生まれ。95年「地下鉄に乗って」で吉川英治文学賞人賞。97年「鉄道員」で直木賞受賞。主な著書に「つばさよつばさ」「アトム・ファイナル」シリーズなど多数。

6月5日発売
 定価：本体580円＋税
 文庫／240ページ
 ISBN978-4-09-406786-6

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406786>

小学館おいしい小説文庫

鴨川食堂もてなし
 柏井壽・著

京都にある看板のない食堂には、思いつきの料理を捜し求め、悩める人々が数多く訪れる。食堂の主人・鴨川流と娘のこいしが、今回も温もりあふれる接客と料理でもてなします。

第一話 ビフテキ：父が交わした約束
 第二話 春巻：身勝手に淡い思い出
 第三話 チキンライス：謝りたい
 第四話 五目焼きそば：震災の爪痕
 第五話 ハムカツ：料理人の原点
 第六話 ちらし寿司：親の心子知らず

今作では、流と深い関わりのある、あのひとの過去も明らかに！
 ますますボリュームアップした料理の数々に癒やされてください。



◆柏井壽(かしわいひさし)
 京都生まれの京都育ち。テレビ番組や雑誌の京都特集で、監修をつとめる。著書に「極みの京都」「日本百名宿」、小説作品に「鴨川食堂」シリーズ、「海近旅館」などがある。

6月5日発売
 定価：本体650円＋税
 文庫／352ページ
 ISBN978-4-09-406776-7

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406776>

小学館おいしい小説文庫

泣き終わったら
 ごはんにしよう
 武内昌美・著

中原温人は社会人四年目の少女マンガ編集者。恋人のたんぼぼさんに美味しいごはんを作ることがいちばんの楽しみだ。優しさと思いやりがたっぷり詰まった温人の料理は、食べた人の心のほころびを癒していく。スランプのマンガ家に振る舞うのは秘密の調味料を忍ばせたきのこパスタ。その味と香りに思い出の箱が開いて……。仕事のトラブルに涙する姉には甘く湧ける肉じゃがを、イケメンのくせに恋愛ベタな友人には複雑な食感の山形のだしを。読めば大切な人とごはんを食べたくなる。心も満腹になる八皿、どうぞ召し上がれ。



◆武内昌美(たけうちまさみ)
 1985年フラービッグボケッツ掲載「涙の向こうにONLY YOU」でマンガ家としてデビュー。その後ジュニア向け小説も執筆。一般文芸を手がけるのは本作が初となる。

6月5日発売
 定価：本体600円＋税
 文庫／288ページ
 ISBN978-4-09-406777-4

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406777>

小学館おいしい小説文庫

こおり
氷と蜜
 佐久そるん・著



◆佐久そるん(さくそるん)
 1976年、大阪府生まれ。2014、2015年に創元SF短編賞で最終候補。19年、『氷と蜜』が第1回日本おいしい小説大賞最終候補に選出される。20年、同作を改稿し、『テレビ』

6月5日発売
 定価：本体630円＋税
 文庫／256ページ
 ISBN978-4-09-406778-1

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406778>

大学生の陶子は、亡き母と一度だけ食した幻のかき氷「日進月歩」を捜していた。羽根のように軽く、艶やかなシロップをまとう、究極の味。との再会は三年を費やしても叶わず、氷捜しの相棒だった恋人にもフラれてしまう。
 喫茶店を営む父は、情熱を失った陶子を案じ、インカレサークル、関西削り氷研究会が企画し、奈良で開催されるかき氷のコンテストに出ると言い出す。削り手として父と出場することになった陶子は、「日進月歩」を超える味を手に入れようと、かき氷激戦区大阪の名店を食べ歩く……。読めば必ずかき氷が食べたくなる青春エンタメ！

小学館時代小説文庫

じょうる
浄瑠璃長屋春秋記
 紅梅
 藤原緋沙子・著



◆藤原緋沙子(ふじわらひさこ)
 高知県生まれ。立命館大学文学部史学科卒業。小松左京が主宰した『創刊』出身。2013年、『隅田川御用帳』シリーズで、第2回歴史時代作家クラブ賞、『シリーズ賞』を受賞。

6月5日発売
 定価：本体640円＋税
 文庫／288ページ
 ISBN978-4-09-406783-5

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406783>

『よろず相談承り』で口を糊しながら、行方知れずの妻を探す浪人・青柳新八郎は長屋の木戸を潜った。と、家の前には見習い同心・長谷啓之進の姿が。諸式をなんでも買いつける「宝屋」のおかみ・おていの用心棒を引き受けた帰りだった。難しい顔の啓之進によれば、最近岡つ引の仙蔵が顔を見せないという。どうも十日ほど前に長屋を訪ねてきた、口元に黒子のある女と関わりがあらし。翌日、「宝屋」の店先で、路地に消えていく仙蔵の背中を目にした新八郎は不審を覚える。元巾着切りの岡つ引に何があつたのか？ 時代小説第三弾。

小学館時代小説文庫

だつばん
脱藩さむらい切り花
 金子成人・著



◆金子成人(かねこなりと)
 1949年、長崎県生まれ。72年、『おはよう』で脚本家デビュー。97年、第16回岡田邦子賞を受賞。脚本作品に、『鬼平犯科帳』、『水戸黄門』など多数。「付添い屋六平太」で小説デビュー。

6月5日発売
 定価：本体640円＋税
 文庫／288ページ
 ISBN978-4-09-406784-2

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406784>

石見国浜岡藩の藩士・香坂又十郎の平穩な暮らしは、一つの藩命によって一変した。「謀反を企み脱藩した義弟を斬れ」。藩命に抗えず、江戸で義弟・数馬を上意討ちにした又十郎だったが、帰郷はかなわず、江戸の目付・嶋尾久作から非情な汚れ仕事を押し付けられてしまう。妻・万寿栄に会いたいと切望する又十郎に藩ご用達の廻船問屋「備中屋」の作右衛門が、「嶋尾久作を斬ってほしい」と願い出る。依頼は、幕府に密貿易の疑いをかけられた浜岡藩内の権力闘争が関係していた。又十郎最後の戦いが始まる。大河時代小説感涙の最終巻！

小学館文庫(キャラクターン！)

あさくさ
浅草ばけもの甘味祓い
 兼業陰陽師だけれど、お隣に、鬼上司が住んでいます
 江本マシメサ・著／漣ミサ・イラスト

ホンモノの、鬼上司だった長谷川係長と、お互いの平和のため、手を組むことにした兼業陰陽師の遥香。鬼と陰陽師の組み合わせは前代未聞の事態を生む!? 浅草を舞台に繰り広げられる危険なラブコメディ、第二弾！

定価：本体600円＋税 256ページ
 ISBN978-4-09-406775-0
<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406775>

6月5日発売 文庫判